

入居者インタビュー

平成22年にご入居された山崎安明さん(82歳)・昌子さん(74歳)ご夫妻をご紹介します。



今回お話を伺った
山崎さんご夫妻

安心して夫婦で老後を楽しみたい

「私は、姑さんの介護をし、大変さが分かっていたので、息子や嫁にその苦勞をさせたくなかった。介護のプロがいる施設で安心して暮らしたい」と奥様は考えていました。

ご主人は、若い頃に会社を作りました。「苦勞した時期もあったが、仕事一筋で、仕事が人生だった。好きな仕事だったので頑張れたが、家庭のことは家内に任せっきりだったんです。」と当時を振り返ります。「安心して、夫婦で老後を楽しみたい」は自然と二人の一致した考えとなりました。

今、お二人は考え通り、それぞれに毎日を楽しんでいます。ご主人の趣味は詩吟とカラオケ。月一回の里の晩酌会も楽しみの一つです。奥様の趣味はカメラ。愛用の一眼レフカメラで写した写真は、プロ顔負けの作品です。

世界一周クルーズでのケガで得たこと

ご主人「ともかく旅行好きで、現役時代は国内、その後は海外のあちこちに行った。印象深いのは、トルコの奇岩地帯のカップドキア、中国のシルクロード、そしてエジプト。ピラミッドや神殿めぐりは、紀元前2000年以上前に作った石の建物や遺跡の技術が本当に素晴らしかった。」



ピラミッドの前で

昨年春は、ご夫妻で世界一周クルーズに参加しました。なんと旅の途中にご主人が骨折。南アフリカのケープタウンの病院で二週間の入院となり、楽しみは一転して不安に変わりました。「その時は、大使館の方に救われました。すぐ病院・ホテルを手配し、滞在中に、私が心細くないように、現地に住む日本人女性も紹介していただきました。私は主人が病院でリハビリする時以外はホテルに帰るのですが、その女性には、通訳はもちろん、自分の車



作品① 白川郷



作品②里のテラスの花

で観光案内もしていただきました。とても楽しかったです。こんな形でその国に滞在することになり、人々の温かさに触れることができました。この国には是非また行ってみたい、その時に会った人々に、心から感謝しています」

帰国後も日本から、お茶やお煎餅を送ったりして、交流は今でも続いているそうです。

妻の為にリハビリに励む日々

ご主人は奥様に感謝しながら、日々リハビリに励んでいます。「これからも体調を維持し、家内に負担をかけないようにと思っています。妻と一緒に、まだ行ったことのない南極・北極の最果ての地など海外旅行にも行きたいと思っています。その為にもリハビリを頑張っているんです」と決意を話していただきました。奥様は「主人が、これから元気でいてくれること。いつまでもズット一緒に暮らしたい」と。

ご主人は朝夕ご先祖様にお経をあげます。「今があるのは、ご先祖様のおかげ」と感謝の気持ちを表します。「私達はゆうゆうの里のことを『極楽の里』と呼んでいます。ここに入居して良かったです。」と結んでいただきました。

本当に嬉しいお言葉です。お二人はまさに『おしどり夫婦』。いつまでも仲良く暮らして頂きたいと思います。